

白藍塾オリジナル

2025年度 入試小論文分析&解答のヒント

2025年3月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

● 慶応・経済学部

例年通り、課題文を読んで2つの設問に答える問題。今年度は課題文が2つになり、「説明問題(200字) + 複雑な条件のついた論述問題(400字)」の2本立てになっているが、十分予想の範囲内だろう。

設問Aでは、課題文Iにある「救命ボートの倫理」と「トリアージ」の違いを説明した上で、「ハーディンの説明がサステナビリティの精神とかけ離れている理由」を説明することが求められている。

「救命ボートの倫理」とトリアージでは、希少な資源の配分に優先順位を付ける点では同じだが、前者が生産性や社会的地位の高い人を優先するのに対し、後者はその資源を最も必要としている人を優先する。生産性と力の論理を重視して弱者の切り捨てもやむを得ないとするハーディンの考え方は、福祉と公平性を重視して持続可能な社会を実現しようとするサステナビリティの理念とは対照的だ。そうしたことを、字数に合わせて説明すればよい。

設問Bでは、①「2つの課題文に即して、アフーマティブ・アクションとトリアージの違いを目的・プロセスの面から説明する」②「これからの社会において希少な資源の割り当てとして考えられるものを理由とともに説明する」という2つの作業が求められている。

①は説明問題。アフーマティブ・アクションについては課題文II、トリアージは課題文Iの中ではっきりと説明されているので、それらをまとめるつもりで書けばよい。それぞれ、「目的」と「プロセス」の2つを明確にしながら説明する必要がある。

②では、「これからの社会における希少な資源の割り当て」の例を考えて理由とともに説明することが求められている。設問では、アフーマティブ・アクションも「技能や教育機会という希少な資源の割り当ての一例」とされているので、「資源」の中身はかなり広い意味で捉えてよいだろう。

文中に挙げられている以外のアフーマティブ・アクションの例として、例えば議員や企業の役員等の女性比率を一定にするジェンダー・クォータ制がある。これは、ジェンダー平等の実現につながるのと同時に、人材不足が危惧される今後の社会において女性の潜在的な能力を活用することにもつながる。また、社会保障や行政サービスについてもしばしば議論されている。少子高齢化が進んで、現役世代の税や社会保障費の負担が大きくなっているが、不公平にならず、かつ持続可能な社会の実現につながるように、世代間等で社会保障や行政サービスをどう配分するとよいのか、今後さらに大きな問題になるはずだ。

このように、現代日本の課題について多少とも知識があれば、例はいろいろと考えられるだろう。書き方としては、まず①と②で一段落ずつに分ける。そして、②は最初に割り当ての例をずばりと示した上で、その理由を説明する形（A型）にするとよい。字数が少ないので、条件通りに答えをまとめるだけですぐに字数が埋まるはずだ。

* 執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。

発行・白藍塾総合情報室（03-3369-1179） <https://hakuranjuku.co.jp>